No. 172

ティーブレイク

Tea Break

浅間山から多摩墓地へ

会員　三宅　正夫

浅間山「せんげんやま」と読む。標高 79.6m であるが周囲との高さの差は 30m にすぎない。前山，中山，堂山の 3 つの小さな峰から成り，その名は堂山の頂きに祀られている浅間神社に由来する。神社の祭神は木花之開耶姫（コノハナサクヤヒメ）。周囲に広がる人見ヶ原は南北朝時代，正平 7 年（1352）足利尊氏と新田義興，義宗との古戦場。約 2m の鳥居と約 80cm の神殿とがあるのみ。高い山でなく而も急峻ではないので年配者には最適。

京王線「多摩墓地駅」下車。新宿寄りの広い道を北進すること約 400m で旧甲州街道。更に約 200m で現甲州街道。角に八幡宮。両街道の間は最近の道路拡張で大規模の立退きが行われた。途中左側の陶芸店は昔ながらの佇まいを残している。現甲州街道との交差点から北に向う道は欅の大木の並木道。この辺左手は見渡す限りの畑ばかりであったが今は住宅街に変身。約 1km の若松町 5 丁目信号で右に墓地群，左側に大きな二階建の建物が現れる。この建物の辺りは明治大学の運動場で野球場が二面もある。昔は三井物産の運動場だった。最近会社の厚生施設を学校法人に身売りするケースが多いようだ。運動場の柵に沿って左に入ると，右手に浅間神社の石段が見える。

山頂からの眺めは約 10m の樹々に妨げられて良好とは言えないが，木漏れ日を楽しむことができる。独立した山なので，本来ならば南に多摩川を挟んで遥かに多摩丘陵，西に自衛隊のアンテナ群，東に多摩墓地が眺められるのであるが，僅か北に小金井市街を望見するのみ。この山は都内で唯一ムサシノキスゲ（ニッコウキスゲの変種でユリ科ワスレ草属多年草）が自生している地。花は淡橙黄色で芳香有り。3〜6 花を 5 月上旬から下旬に開く。花は 6 つに分れ花型はノカンゾウ型，葉は細長く 8 月には枯れ初める。山の西斜面に多い。

東側斜面を下ると，吊橋を渡ってクヌギ，ナラの多い多摩霊園 25 区に入る。この霊園は NHK ドラマ「坂の上の雲」の立役者，秋山好古，広瀬武夫，乃木希典や忠犬ハチ公を連れた上野博士他の青山霊園，幣原喜重郎（首相），松浦武四郎（幕末に蝦夷地を調査，北海道と命名した探検家），下瀬雅允（シモセマサチカ，日本海海戦で陰の功労のあった下瀬火薬の発明者）他の染井霊園（染井吉野の発祥地），鳩山一郎（首相），横山大観（日本画家），徳川慶喜（江戸幕府 15 代将軍）他の谷中（ヤナカ）霊園，夏目漱石（小説家），中浜（ジョン）万次郎（徳川末期捕鯨船に救われ米国に渡った），東条英機（首相，陸相）他の雑司ヶ谷（ゾウシガヤ）霊園等，都営霊園の一つであり，約 120 万㎡の広さ。東京ドーム（46,755㎡）の何倍？園内には似たり寄ったりのロータリーが沢山あって，どちらを向いて歩いているのか迷ってしまう。櫻，アカマツの名所。共産党の闘士，志賀義雄（レリーフ入り）が 25 区 1 種 76 側（上記浅間山に近い場所）に眠る他，有名人が多い。川合玉堂（日本画家），岡本太郎（洋画家），小泉信三（慶応大塾長），高橋是清（特許庁初代長官），徳富蘇峰（文筆家），朝永振一郎（物理学者，ノーベル賞），新渡戸稲造（教育者，英文「武士道」の著者），長谷川町子（マンガ），三島由紀夫（作家），山本五十六（軍人），与謝野晶子（歌人）他の墓*を訪ねてみては？墓地を歩き廻っていると思わぬ発見がある。例えば吉川英治の墓（20 区 1 種 51 側）は六角形，高さ約 25cm の石に吉川英治と刻んであるだけで見付けるのが難しい。

帰りは墓地裏門から JR 武蔵小金井と三鷹駅，京王

線調布と多摩墓地駅へのバスの便がある。

＊墓標を外から見るのはよいが墓域は私有地であるので域内に入るのは不可。例えば鼠小僧次郎吉の墓の如きは，彼の侠気にあやかりたい（？）のか，未だに彼の墓標を削ったりする人が絶えないとは嘆かわしい限り。